

新製品開発におけるフロントエンドローディング

‘相反的機能と新製品’

— 新製品開発の創世 —

(株) ジョンケルコンサルティング 落合以臣

A Front-End Loading in New Product Development

“Conflict function and a new product”

-The Genesis of new product development-

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

**Keywords : Yes or NO・トレンド予測・創造力・リーダー・相反機能**

IQ International Review Vol.10 に引き続き、もう少し付け加えたいと思います。2020 年を超えた時代は、米国のトランプ大統領に端を発した YES か NO の時代、言い換えますと「白か黒か」、「好きか嫌いか」、「右か左か」、「賛成か反対」といったことから様変わりし、消費者ニーズも Yes or NO の or の時代に入ると思われます。この or の時代とは、我々日本人が好む「まあまあ、そうは言っても、さも言っても」などのような、もう少し詳しく述べますと、白と黒の間にグレーがあるでしょうというような曖昧模糊としたことではなく、「何々に範を置く」という、つまり、小さくても核となる確かな技術を見出しそこに踏み足を置き、そこから派生して生まれる新たな製品へ展開していく時代になると言えます。まさしく、新時代を切り開くほどの意義を持つ製品が台頭してくることが期待されます。

今までは、トレンド予測によって、5 年先、10 年先の世情を把握し、消費者ニーズを先取りしたうえで製品構想へと導いてきました。しかしながら、その方法では消費者ニーズの表面的な動向を捉えることができますが、深層に潜む内容までを炙り出すことが難しいといえます。また、競争力の弱い製品になってしまいます。

今後は、人間環境を保護するという大義名分を傘に種々なハイテク、あるいは、今流行の AI などを取り入れた機械的な時代から、また、働き方改革が浸透していく中で、本来の人間が持つ特質を端的に要領よく内実化させ、ひとりひとりの価値観を満足度に代えていく、極めて難しい時代に入ると考えられます。それを現実路線に置き換えながら、新製品開発を着実に進めていくことが、一種の改革時代を形成していくともいえます。

こうしたことに鑑みますと、今までのような近視眼的なリーダーではなく、5 年先、10 年先を見据え、それを確実に製品に落とし込めるリーダーが必要になると思います。言い換えますと、創造力を十分に発揮できるような人材によって、一味のある製品が生まれることが期待されます。この新時代の幕開けを背負って立つことができる人材、創造力を兼ね備えたリーダーの育成が期待されます。

ここ数年、思いもよらない製品・商品、AI 3 次元メガネ、タピオカドリンクなどが出回り始め、そればブームとなって次々に新たな製品が誕生したことは周知の通りです。ただ、どれも一製品にとどまり大きな市場を獲得することができず、ちょっとしたアイデアの時代を形成したにすぎません。また、販売方法も従来の宣伝・販売の構図から、いろいろなものがネットワークとして連携して、販売されるようになりました。例えば、白物家電とスマホの組み合わせ、AI と自動車との組み合わせなど、当たり前の中になりました。この現象の延長線上に位置する新製品を予言しますと、セキュリティーで大きな役割を演じていますセンサーは、今後も大きな市場を獲得するでしょう。例えば、電車の中で居眠りをしているひとが、横のひとに持たれかかる寸前に、体の横ブレをセンサーが察知して、自身に警告を与えることにより、他の人に迷惑をかけないように事前に警告するような仕組みが出来上がるかもしれません。しかしながら、センサーで安心・安全が保証されるような環境が整えられれば整うほど、一方では人間がもつ連動反射機能が後退し、機能社会に反対を唱えるひとも増えてくることも予想されます。このような相反的な機能を製品に反映することができれば、人間環境に密着した新製品といえるのではないのでしょうか。